

ホオズキに寄生するネコブセンチュウ類防除法

米田 恵美

(大分農林水産研指花き)

【目的】

大分県ではホオズキが盛んに栽培され、主要な品目となっている。次年度の定植苗は、主に収穫後に残された地下茎を供しているが、一部の産地ではネコブセンチュウ類が地下茎に寄生し、十分な苗が確保できない問題が発生している。そこで、ホオズキの地下茎に寄生したネコブセンチュウ類に対する各種薬剤の防除効果について検討した。

【材料および方法】

県南部の産地で採取したネコブセンチュウ類が寄生した地下茎を2011年4月4日供試薬剤に浸漬、風乾後、プランター（60cm×18cm）に定植（4本/プランター）した。

供試薬剤はメソミル水和剤（1000倍）、ホスチアゼート（1000倍）とし、各薬剤で浸漬処理時間を15分と5時間とした。試験区は各区20株で3反復実施した。

調査は、処理前（4月4日）、処理35日後（5月9日）、処理92日後（7月5日）に実施し、1区6株について、根こぶ数および根こぶ形成程度を所定の基準で調査し、根こぶ指数を算出した。

【結果および考察】

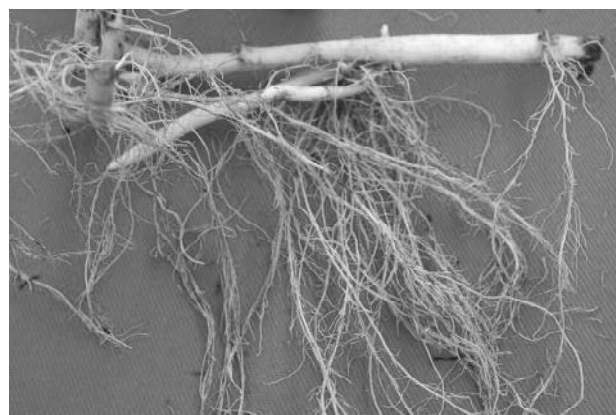
処理92日後の結果から、ホスチアゼート液剤の5時間浸漬ではほとんど根こぶが確認されず、高い防除効果が認められた（第1表、第1図）。また、メソミル水和剤の5時間浸漬についても防除効果が認められた（第1表）。

メソミル水和剤およびホスチアゼート液剤の15分浸漬では防除効果は認められなかった（第1表）。

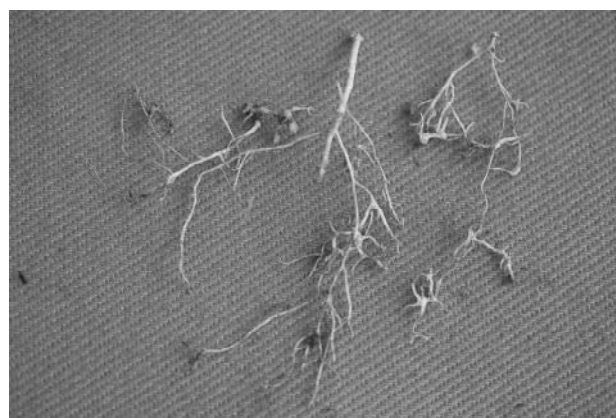
以上の結果から、ホオズキの地下茎に寄生したネコブセンチュウ類に対して、ホスチアゼート液剤（1000倍）およびメソミル水和剤（1000倍）の5時間浸漬が有効であることが明らかとなった。

第1表 ホオズキのネコブセンチュウ類に対する防除効果

薬剤名	希釈倍数	処理時間	区	根こぶ数			根こぶ指数	
				処理前 (4/4)	35日後 (5/9)	92日後 (7/5)	92日後 (7/5)	92日後 (7/5)
メソミル水和剤	1000倍	15分	I	387	75	95		38
			II	355	71	140		25
			III	346	38	8		8
			平均	362.7	61.3	81.0		23.6
			密度指数	132.4	136.5			
メソミル水和剤	1000倍	5時間	I	406	28	37		8
			II	286	31	10		4
			III	400	23	7		25
			平均	364.0	27.3	18.0		12.5
			密度指数	59.0	30.3			
ホスチアゼート液剤	1000倍	15分	I	369	30	92		25
			II	360	28	86		17
			III	344	35	62		25
			平均	357.7	31.0	80.0		22.2
			密度指数	66.9	134.8			
ホスチアゼート液剤	1000倍	5時間	I	523	25	0		0
			II	277	20	0		0
			III	314	20	3		4
			平均	371.3	21.7	1.0		1.4
			密度指数	46.8	1.7			
無処理			I	583	37	37		8
			II	210	54	66		13
			III	328	48	75		17
			平均	373.7	46.3	59.3		12.5
			密度指数	100.0	100.0			



第1図 ホスチアゼート液剤5時間浸漬区の地下部（処理92日後）



第2図 無処理区の被害根（処理92日後）